

万葉集のたのしみ方



日常の中で気楽に万葉集に触れましょう

学校では古文としてだけ万葉集を学ぶことが多いですね。
でも、それだけではおもしろくありません。
万葉集をいろいろな視点で読んで、たのしんでみましょう。



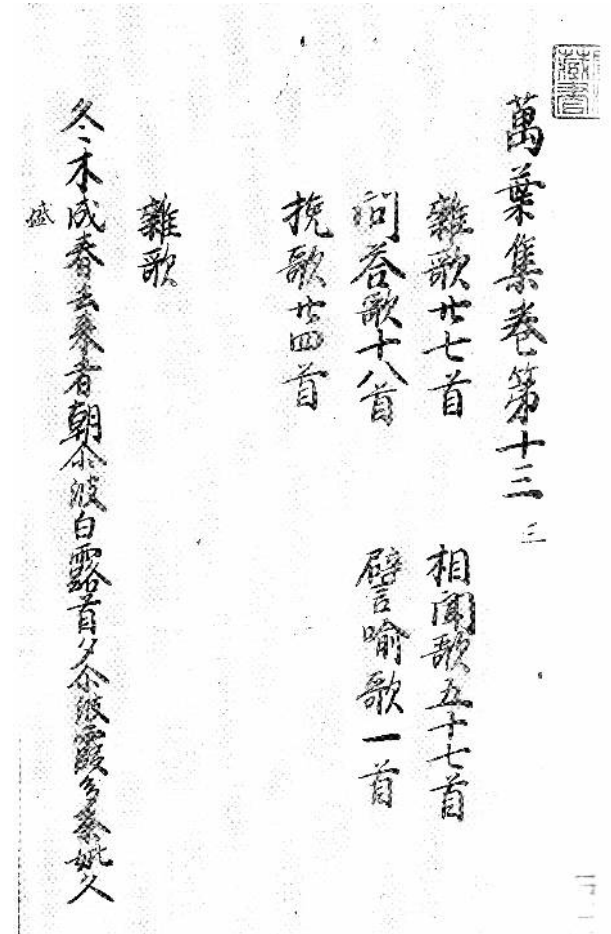
万葉集のおおまかなこと

- 7世紀後半から8世紀後半ころにかけて編まれた日本に現存する最古の和歌集です。
- 巻1～巻20まで、およそ4520首(写本によって異なるので)の歌が載っています。
- 天皇、皇族だけでなく、庶民の歌も数多く載せられています。
- すべて漢字で書かれています。
- 最初は数巻がまとめられ、のちに追加され、最終的に大伴家持が20巻にまとめたと考えられています。
- 「万葉集」は、「万(よろず)の言(こと)の葉の歌集」からその名がつけられたとも、「万代(よろずよ)に伝えられるべき歌集」からとも言われています。



大伴家持像(富山県高岡市)

Copyright 2011 たのしい万葉集



冬こもり 春さり来れば 朝には 白露置き
夕には 霞たなびく

万葉歌

私たちに身近な歌もたくさん

- **【草花・樹木】** 萩、桜、梅、すみれ、柳、綿、紫草、卯の花、桃、藤、山吹などなどでも、最近では万葉集に詠まれた草花が少なくなってきました・・・
- **【四季】** 万葉の人が感じた日本の季節感を、歌を通じて感じたり、共感できます。
- **【自然】** 万葉の人々が触れていた豊かな自然への想いを知ることができます。
- **【生き物】** 鳥(鴨、鶯、鶴など)、鹿などにも心を通わせていたようです。
- **【生活】** 万葉の人々の暮らしが伝わってきます
- **【恋】** 万葉の人々の恋の喜び・苦しみが伝わってきます。
- **【地名】** 歌に詠まれた土地を訪れたときに、より万葉歌を味わうことができます。
- **【物語】** 浦島、竹取の翁のお話もあります。
私たちがよく知っているお話とはだいぶ違いますけどね。



- 太平洋戦争中に兵士たちが持っていった本の中で万葉集が最も多かったと言われています。故郷に、巻と歌番号を書いた手紙を送っていたそうです。

草花・樹木

たとえば秋の七種(ななくさ)



なでしこ



女郎花(おみなえし)

- 萩: 最も多く詠まれている花

- 08/ 1537: 秋の野に咲きたる花を指(および)折り、かき数ふれば七種(ななくさ)の花
- 08/ 1538: 萩の花、尾花、葛花(くずはな)、なでしこの花、をみなへし、また藤袴(ふぢはかま)、朝顔の花 山上憶良



萩(はぎ)



尾花(おばな)



葛(くず)



桔梗(ききょう)



藤袴(ふじばかま)

- 桜、梅、すみれ、柳、綿、紫草、卯の花、桃、藤、山吹などなど

四季

春・夏・秋・冬・月ごと



【春】05 / 0833: 年のほに春の来らばかくしこそ梅をかざして楽しく飲まめ

大令史(だいにょうし)野氏宿奈麻呂(やじのすくなまろ) 大伴旅人の邸宅での宴会で詠んだ歌

【夏】01 / 0028: 春過ぎて夏来るらし白栲の衣干したい天の香具山 持統天皇

【秋】04 / 0488: 君待つと我が恋ひ居れば我が宿の簾動かし秋の風吹く 額田王

【冬】20 / 4488: み雪降る冬は今日のみ鶯の鳴かむ春へは明日にしあるらし 三形王(みかたのおおきみ)

【月】

- **05 / 0815: 正月(おつき)立ち春の来らばかくしこそ梅を招きつつ楽しき終(を)へめ 紀男人**
- **03 / 0320: 富士の嶺に降り置く雪は六月(みなつき)の十五日(もち)に消(け)ぬればその夜降りけり 高橋虫麿**



望月(もちづき)

- **15 / 3716: 天雲のたゆたひ来れば九月(ながつき)の黄葉の山もうつろひにけり 遣新羅使**

自然

山、川、海、風、月、雨、雪など



- **11 / 2706: 泊瀬川早み早瀬をむすび上げて飽かずや妹と問ひし君はも 作者不明**
 - 初瀬川の早瀬(はやせ)の水を手ですくってくれて、「好き?」といってくれたあの方はいま。
- **14 / 3360: 伊豆の海に立つ白波のあいつつも継ぎなむものを乱れしめめや 作者不明**
 - 伊豆の海に立つ白波が消えることの無いように、ずっとずっと想っています。あなたの心を乱すようなことはしません。
- **01 / 0051: 采女の袖吹きかへす明日香風都を遠みいたづらに吹く 志貴皇子(しきのみこ)**
 - 采女(うねめ)の袖を揺らしていた明日香の風も、都を遠くにし(藤原宮に移って)、空しく吹いています。

三輪山



初瀬川



生き物

鳥(鴨、鶯、鶴など)、鹿、鯨など



- **11 / 2833: 葦鴨(あしがも)のすだく池水溢(はふ)るとも、まけ溝の辺に我れ越えめやも 作者不明**

- 葦(あし)のあたりに集まっている鴨が騒いで池の水があふれたとしても、私は水路のほうに越えて行きたいはしませんよ(心変わりしませんよ)。
- 「まけ溝」は、水を流し出すために掘った溝のことです。

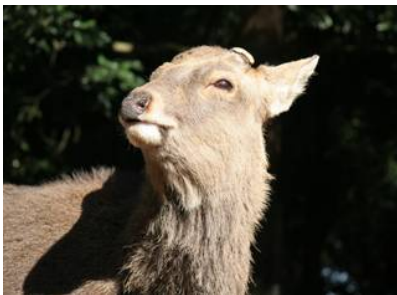


- **16 / 3852: 鯨魚取り海や死にする山や死にする死ぬれこそ海は潮干て山は枯れすれ 作者不明**

- 海は死にますか?! 山は死にますか?! (いいえ、海も山も死にます)死ぬれからこそ、海は潮がひいて、山は枯れるのです。

- **10 / 2155: 秋萩の咲たる野辺にさを鹿は散らまく惜しみ鳴き行くものを 作者不明**

- 秋萩が咲いている野の鹿は、散るのを惜しんで鳴きながら行きますよ。



生活

うなぎ、洗濯、養蚕など



蚕(かいこ)

- **16/3853 石麻呂に我れ物申す夏瘦せによしといふものぞ鰻(むなぎ)捕り食(め)せ 大伴家持**
 - 石麻呂さんに申し上げますよ。夏瘦せに良いそうですから鰻を捕って食べてくださいな。
- **14/3373 多摩川にさらす手作りさらさらになにぞこの子のここだ愛(かな)しき 不明**
 - 多摩川(たまがわ)に布をさらすよ、流れはさらさらとして。ああ、さらさら(いまさら言うまでも無いが)どうしてこの児がとてもかわいいのでしょうか。
 - 「手作り」は手織りの麻布で、布を白くするために、川で洗って日に干します。
- **11/2495: たらつねの母が養(か)ふ蚕(こ)の繭(まよ)隠(ごも)り隠(ごも)れる妹を見むよしもかも 柿本人麻呂歌集より**
 - 母が飼う蚕が繭の中に隠れるように、家に閉じこもっているあの娘を見る方法がないのでしょうか。

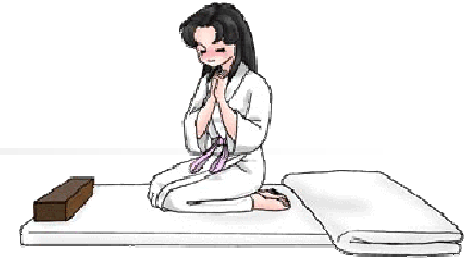
※貧窮問答歌(山上憶良)もよく知られています
農民の困窮した暮らしを詠んだ長歌です。



多摩川

恋の歌

夢で逢えたら



- 万葉の人々は、離れていて逢えない相手が自分を思ってくれていると夢に現れてくれるとか、恋しい相手のことを強く思うと、恋しい人が夢に現れてくれる、と信じていました。それで、「会えないあの人に、せめて夢で逢いたい。」という気持ちから、いろいろなことをやってみたようです。
- 恋しい相手のことを強く思う
 - 12/3162: みをつくし心尽して思へかもここにももとな夢にし見ゆる
妻が身も心も尽くして私のことを思っていてくれるからか、旅先でもしきりに妻の姿を夢に見ます。
- 袖を返して寝る
 - 11/2812: 我妹子に恋ひてすべなみ白袴の袖返ししは夢に見えきや
あなたが恋しくて、衣の袖を折り返して寝たのですが(あなたの)夢に見えたでしょうか。
- うけひ、をする
 - 04/0767: 都路を遠みか妹がこのころはうけひて寝れど夢に見え来ぬ
都が遠いからでしょうか、うけひをして寝ても妻が夢に出てくれない。

※うけひ(宇気比、誓): たとえば、好きでいてくれたら眉がかゆくなる、そうでないならばかゆくならないなどとあらかじめ決めておいて、そのどちらが起こるかで占います。



男女関係の進展

名告り → 呼ばひ → 妻問い

防人の歌

ふるさとを離れて



- 防人(さきもり)は、筑紫(ちくし)・壱岐(いき)・対馬(つしま)などの北九州の防衛にあたった兵士たちのことです。崎守(さきもり)の意味(ただし、色々な説があるそうです)だと考えられています。
- 20/4352: 道の辺の茨(うまら)のうれに延(は)ほ豆のからまる君をはかれか行かむ 女部
鳥(はせつかべのとい)
 - 道端のうまら(ノイバラ)の先に絡みつく豆のように、私に絡みつく君を置いて別れゆく。
- 20/4401: 唐衣(からころむ)裾(すそ)に取り付き泣く子らを置いてぞ来(き)のや母(おも)なしにして 他田舎人大嶋(おさたのとねいおおしま)
 - 衣の裾(すそ)に取(と)り付いて泣く子供たちを置いてきました。母もいないのに。



防人には東国の人たちが選ばれました。任期は、3年で毎年2月に兵員の三分の一が交替となっていました。
東国から行くときは部領使(ぶりょうし)という役割の人が連れて行きますが、徒歩(時には船、馬)です。帰りは、自費です。

戯れの歌

宴会で



- **16/3831: からたちと茨(うばら)刈り除(そ)け倉建てむ屎(くそ)遠くまれ櫛(くし)造る刀自(忌部首)**
 - からたちと茨(うばら)を刈り除いて、倉を建てると。屎(くそ)は離れたところでしなよ、櫛(くし)を作るお姉さん。
- **16/3842: 童(わらは)ども、草はな刈りそ、八穂蓼(やほだて)を、穂積(ほずみ)の朝臣(あそん)が、腋草(わきくさ)を刈れ 平群朝臣(へぐりのあそん)**
 - 子供たちよ、草を刈らないで、穂積(ほずみ)の朝臣(あそん)の臭い脇毛を刈いなさい。
 - 八穂蓼(やほだて)というのは、沢山の穂がついた蓼(たで)という意味です。「八穂蓼(やほだて)を」が「穂」を導く枕詞になっています。



万葉集

写本の例(廣瀬本萬葉集)

隱口の泊瀬小国に妻しあれば石は踏めどもなほし来にけり

隱口の泊瀬の国にさよばひに我が来ればたな曇り……

越賣作樂花佐可遠越賣汝乎叙母音介依之音初物
 汝介依之汝者以何念也念社歲八年乎斬髮与智乎乎過橋之
 未校乎瀨具里此川之下母長久汝心待
自奉懸八化年去之

右五首

隱口乃泊瀬國介左陪婚丹吾来者棚雲利雪者
 零来尤重理丙者洛来野鳥鳴動家鳴可鶏毛
 鳴左衣者明此夜者祖奴入而入而且將眠此戸開為

又歌

隱来乃泊瀬少國丹妻有者履交猶来

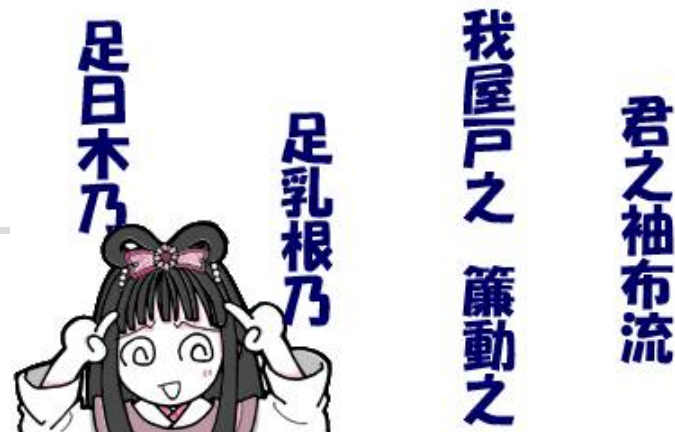
カクランノハツセノオクニニシアヒシハフメトモナラフニケル

隱口乃長谷女國夜延為吾天皇寸与奥床仁母者
 雖有外丹文者寐有起立者母可知出行者父可
 野于玉之夜者祖言奴歲許言不念如隱嬾香聞

又奇

隱口の 泊瀬小国に よばひせす 我が天皇よ 奥床
 に 母は寐ねたり 外床に 父は寐ねたり 起き立た
 ば 母知りぬべし 出でて行かば 父知りぬべし ぬば
 たまの 夜は明けゆきぬ ここだくも 思ふことなら
 ぬ 隠り妻かも

万葉仮名



- 万葉集はすべて漢字(万葉仮名)で書かれています。平安時代には何と読んだら良いかわかりにくくなっていたようです。そのため、万葉集をどう読むかをいろいろな人が研究し、訓点(くんとん=読みかな、のこと)をつけました。
- 【九九】の例
- 11/2542 若草の新手枕(にひたまくら)をまきそめて夜をや隔(へだ)てお憎くあらなくに 作者不明
- [原文]若草乃 新手枕乎 巻始而 夜哉将間 二八十一不在國
 - 若草のような初々しいと妻の手枕を巻きはじめて、もう一夜も逢わないではいられません。可愛くて仕方がないので。
 - 八十一 << 二五 とお 十六 しし
- 【恋】の例
 - 戀、古比、孤悲
 - 04/0560 恋ひ死なむ後は何せむ生ける日のためこそ妹を見まく欲いすれ 大伴百代
 - [原文]孤悲死牟 後者何為牟 生日之 為杜妹乎 欲見為礼

ご参考

- **おすすめ書籍**
 - 万葉集一「新編国歌大観」準拠版（上巻/下巻）（角川ソフィア文庫）
- **おすすめサイト**
 - たのしい万葉集 <http://www6.airnet.ne.jp/manyo/main/index.html>
 - Nippon Archives || 万葉集～ココロ・ニ・マド・ヲ～ <http://www.manyoshu.jp/top.html>
- **おすすめテレビ番組**
 - NHK 日めくい万葉集 <http://www.nhk.or.jp/manyoushuu/>
- **旅先で時間があれば立ち寄ってみたい資料館**
 - 高岡市万葉歴史館
 - 奈良県立万葉文化館

※旅に出かける前に

「行く先 + 万葉集」で検索してみてください。もしかしたら、そこは万葉の地のひとつかもしれません。